

参加報告：国際基準の大学教育改革

－日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること－

国際関係学科 宮谷 敦美

高等言語教育研究所からの派遣により、河合塾主催 2015 年度国際シンポジウム「国際基準の大学教育改革－日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること－」(2015 年 12 月 12 日開催 於ベルサール九段)に参加した。

シンポジウムでは、河合塾がオーストラリア教育研究所 (Australian Council for Educational Research) と協力して作成した大学生調査 (JUES) の概要と 19 大学で実施したパイロット調査の結果の報告があった。JUES は、大学生の経験のうち測定可能で学習・発達の成果に結びつき、また大学に責任がある経験に関する情報を集めることを目的としている。JUES のような調査を活用することで、大学が、今後学生にどのような学修機会を作ればよいか分かり、また、他大学との比較を基に大学の戦略的な行動計画を作成するために必要な情報を得ることができる。本報告では、シンポジウムのプログラムと共にキーワードとなった「学生エンゲージメント」について報告する。

1. プログラム

第 1 部 学生のエンゲージメントと学生調査の国際的な動向

全米高等教育経営システム研究所 所長 Peter Ewell 氏

第 2 部 日本とオーストラリアの学生調査の概要とその結果からわかること

河合塾教育情報部 部長 近藤治氏

オーストラリア教育研究所 主任研究員 Daniel Edwards 氏

第 3 部 各大学の事例発表

ディーキン大学 教育担当副学長 Beverley Oliver 氏

産業能率大学 経営学部教授 松尾尚氏

山梨大学大学院 総合研究部教授 塙正典氏

2. 学生エンゲージメントに着目した大学運営

学生が大学でいかに学んだかを知るキーワードのひとつに「学生エンゲージメント (Student Engagement)」がある。エンゲージメントと似た意味で使われることばに「学生満足度」があるが、この違いについて、Peter Ewell 氏は以下のように説明した。学生満足度は、「学生がどういう大学経験を楽しんでいるのか」を測るものであり、学生の成功と関連はあるが、学習をよりよくする根拠にはならない。それに対して、学生エンゲージメントは、学生のどのような活動が学習の質が高めるのかに着目したものであり、学生エンゲージメ

ントを高めることが、大学そのものの質を高めることにつながる。学生エンゲージメントを見るためには、教育機関側の要素と学生側の要素に分けて考える必要があり、教育機関側のエンゲージメントの要素には、①課題＝チャレンジの量、②教育者のふるまい、③能動的に学ぶためのカリキュラムがある。また、学生側の要素には、①授業以外での時間の過ごし方、②わからないことへの行動＝質問など、③授業以外での教師との接触、④他の学生との協力、⑤教職員以外の人との接触、が挙げられる。

最近注目されているいくつかの教育手法、例えば、PBL 型授業や反転授業などは、上述の要素の性質を持っている。例えば、PBL 型授業は、学生が能動的に学ぶことを奨励し、チャレンジの量を増やす。また、他の学生と協力しながら、大学内外のリソースを活かしつつ（さまざまな人と接触してアドバイスを得ながら）学習を進めていく。

第 3 部で事例を発表した産業能率大学と山梨大学は JUES パイロット調査実施校でもある。産業能率大学の松尾尚氏は、初年次 PBL の導入と JUES 調査結果との関係について報告した。1 年と 4 年の調査結果の比較から、PBL を導入している 1 年次では、JUES のエンゲージメントに関連する項目での数値が高いという結果が出た。

山梨大学では、学生自身の主体的・協調的な学びを促進するために、反転授業を導入している。塙正典氏は、工学部で導入した反転授業の概要と平成 24 年度と 26 年度の評価比較を基に、反転授業の導入が学生の学びの質を高めていると報告した。学生エンゲージメントを高めるといふ観点からどのようなカリキュラムや教育手法を取り入れるべきか検討することが、結果として学生の学びの質を高めていく可能性を有していると言えよう。

本学で行っている授業アンケートについて今後項目を検討する際に、学生エンゲージメントという観点から見直すことも選択肢のひとつになるのではないかと感じた。

— JUES(日本の大学生の学習経験調査)の概要

KAWAIJUKU

■ 質問項目

- 修得学位
 - ・専攻している専門分野 など
- 入学者選抜
 - ・大学に入学したときの選抜方式(一般入試、推薦入試、AO入試 など)
 - ・受験科目数
 - ・大学の志望順位 など
- 実情に関する質問
 - ・授業への出席時間数(1週間平均)
 - ・授業の予習・復習および自主的な学習時間数(1週間平均)
 - ・アルバイトの時間数(1週間平均)
 - ・ボランティア活動の時間数(1週間平均)
 - ・サークル活動・部活動の時間数(1週間平均)
 - ・大学への通学時間
 - ・経済的な状況が学業に影響を与えたか
 - ・アルバイトが学業に影響を与えたか など

- 学業との関わり
 - ・学業に専念できるように大学から支援を受けたか
 - ・(学生自身が)大学で学ぶ心構えがあったか
 - ・(学生自身が)学業に対するモチベーションがあったか
 - ・大学への帰属意識をどの程度もったか
 - ・授業中のディスカッションへの参加の頻度
 - ・他の学生とのグループワークの頻度
 - ・授業外での学生との交流の頻度
 - ・退学を真剣に考えたことがあるか、その理由 など
- 授業および教育面での開発
 - ・専攻する課程での指導・授業の総合評価
 - ・大学教員の学生へのかかわり方
 - 学生の学習を気にかけていたか
 - カリキュラムや評価の明確な説明があったか
 - 知的好奇心を刺激してくれたか
 - 課題・提出物へのコメントの頻度
 - 課題の設定の頻度 など

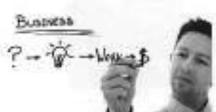
2015.12.12 International Symposium

©Kawaijuku Educational Institute 15

— JUES(日本の大学生の学習経験調査)の概要

KAWAIJUKU

- ・ 学習リソース・学習環境
 - 教室(講義スペース、実験室なども含む)
 - 学生の交流スペース・談話室
 - コンピュータ・ネットワーク環境
 - 教科書・講義資料
 - 図書館 など
- ・ 専攻課程は体系化されているか
- ・ 専攻課程は自分が学んでいることと関連しているか
- ・ 専攻課程を通じて次の能力・技能は向上したか
 - 学習している分野に関する知識
 - 批判的思考力
 - 複雑な問題を解決する能力
 - グループで協調することのできる能力
 - 自主的に学習できるという自信
 - 仕事関連の知識と技能



- 支援
 - ・就職支援は利用しやすかったか/役に立ったか
 - ・学習支援スタッフ(教員・職員・TA)による支援は利用しやすかったか/役に立ったか
 - ・学生自身に適した支援がどの程度提供されたか
 - ・専攻課程のよかった点(自由記述)
 - ・専攻課程の改善が必要な点(自由記述)
- 学生自身の将来の見通し
 - ・大学入学時に将来やりたいことは決まっていたか
 - ・現在、大学卒業後にやりたいことが決まっているか
 - ・大学の授業は自分のやりたいことに密接に関わっているか
 - ・すぐに就職して最初から正社員になるか/正社員にはこだわらないか
 - ・大学院に進学するか
 - ・卒業後はすぐに就職しなくてもよいと考えているか

157